

## 【最優秀賞】

# 世代間交流がもたらす心色ケア

～ふれあうぬくもりから得たもの～

神戸〈ゆうゆうの里〉生活サービス課

○大庭隆史 今堀陽平

### 【目的】

「心色ケア」とは、神戸〈ゆうゆうの里〉のご入居者が新たに生きがいや日々の楽しみを見つけ、心に「色」をつけていくようなケアの造語である。

前年度の幼老統合ケアの先行研究や可能性調査から、世代間交流の心色ケアへの必要性を感じた。そのため、イベント的な行事ではなく、年間を通してご入居者が楽しめ、かつ地域との関わりを増やし、子どもたちの育成支援を含めた相互の思いやり、刺激、生きがいづくり、介護予防にもつながるような包括的な取り組みを提案した。

ご入居者、子ども達が一人ひとりを認識し名前を呼び、手に手をとって自然な笑顔がこぼれる、また子ども達にとっては高齢者の状態変化、ご入居者にとっては子どもたちの笑顔、成長を目の当たりにできる機会ともなり、里や町全体でつながれるような関わりを目指していきたい。

### 【方法】

1. 農園を活用した世代間交流の提案  
(ア)年間を通じた野菜作りによる収穫への楽しみや期待、会話の増加  
(イ)子どもと作業することでの自然な介護予防
2. 世代間交流に興味を示して下さったご入居者への説明
3. A 保育園への提案
4. 具体的な流れ(2012/1/18～2012/10/30 現在進行)

1月職員への研究説明、2月A 保育園への提案、参加ご入居者への説明、3月担当先生への研究説明、ジャガイモの植え付け、4月経過観察、5月土寄せ、さつま芋植え付け、A 保育園への行事参加、7月収穫、喫食、8月スイカ割り、11月さつま芋収穫

5. 参加者からの聞き取り調査

※写真の使用については2月のA 保育園提案時に意向確認、研究活動の説明を行い、同意を頂いた。ご入居者へも研究説明を行い、意向を確認し同意書に署名を頂いた。

### 【結果】

- ・ 徐々に参加される方も増え、多い時は入居者 25 名、園児 42 名の方が参加され楽しまれた。
- ・ ご入居者から次に子どもたちが喜ぶような提案をしてくれた。
- ・ ご入居者の笑顔が増えて、職員や入居者同士での会話が増えた。
- ・ 子どもたちから名前を呼んでくれるようになり自宅でも里の話をしてくれた。
- ・ 里内だけでなくご入居者の A 保育園への行事参加訪問もでき、地域との繋がりがより深まった。

### 【考察】

- ・ ご入居者の笑顔が増え、会話も弾んでいた。収穫物の成長と子ども達の成長に喜びを感じておられた。交流会の時だけでなく、その他の時でもご入居者同士の会話が増えた。

### 【結論】

- ・ 心色ケアの活動を通じて、ご入居者には新たな生きがいや喜び、子どもたちには高齢者の状態変化や手助けが必要になること、育成支援につながった。
- ・ 継続して活動を続けていくことと、保育園への訪問も今後増やしていければ、ご入居者の生活の幅が広がると思う。

## 【優秀賞】

# あなたのための時間と空間

～ アロマセラピー ハンドマッサージの効果 ～

伊豆高原〈ゆうゆうの里〉ケアサービス課

○丸山野孝美

### 【目的】

ケアセンターではご入居者の乾燥肌を改善するため、平成 22 年より入浴後にアロマオイルを全身に塗布する取り組みを始めた。結果、乾燥肌を改善するだけでなく、アロマオイルに使用しているラベンダー精油の香りやアロマオイルを塗布する時に肌に触れる手の刺激などでご入居者に心地良くなっていただけることを実感していた。平成 23 年、認知症ケアプロジェクトの一環として、アロマセラピーの活用をテーマにした共同研究のモデル施設となり、要介護度も高く、意思の疎通が難しいケアセンターのご入居者に心地良く過ごしていただけるのではないかと考え、アロマオイルを使ったハンドマッサージに取り組んだ。

### 【方法】

#### (1) データ収集方法

研究対象：言葉での意思表示が難しく、コミュニケーションをとる機会が少ないと職員が感じている、また、手指の拘縮がみられるケアセンターのご入居者 10 名

研究期間：平成 23 年 9 月 19 日～12 月 23 日の約 3 ヶ月間

研究方法：月曜日～金曜日の午後 2 時～3 時に、機能訓練室にて 1 日 2 名ずつ実施。1 名に対して 1 回 20 分のハンドマッサージを週 1 回実施。①拘縮予防及び改善②循環不全の改善③疼痛の緩和④関わる時間を持つの 4 項目を目的として、実際前と実施後の変化を記録。

#### (2) 倫理的配慮

実践で収集したデータの使用については対象のご入居者及びご家族の了解を得て、個人が特定されないように配慮した。

### 【結果】

拘縮や循環不全の改善については、硬かった指が柔らかくなったり、紫色で冷たかった手が温かくなったりするなど、1 回ごとのハンドマッサージ中には変化が見られたがその効果は持続しなかった。また、疼痛の緩和との因果関係については実証されなかった。一番効果を感じることができたのは、不安気な表情が穏やかになったり、気持ち良くなって眠ってしまったりなどのご入居者の変化だった。

### 【考察】

アロマオイルの香りやハンドマッサージによる肌への柔らかな刺激、何よりも「あなたのために」という思いで 1 対 1 の特別な時間と空間を共有できたことは、ご入居者に心地良くなっていただけるだけでなく、職員の満足感も得られることがわかった。

### 【結論】

アロマセラピーはご入居者にとって心地良さを提供できるひとつのツールである。今後、ケアセンターのご入居者に継続して実施できるようにするためにはどうしたらよいかを考えていきたい。

## 【優秀賞】

### エプロンプロジェクト

～快適に業務をおこなうために～

伊豆高原〈ゆうゆうの里〉ケアサービス課

○里吉恵子 齋藤るみ 丸山寿美  
海老名弥生 緒方珠美 藤原裕美

#### 【目的】

平成 22 年、新制服導入に伴い、介護用エプロンもリニューアルした。購入にあたり耐久撥水性能や着脱のしやすさを考慮し、見本を取り寄せ、試着し購入した。それにも関わらず、「肩が落ちる」「車椅子のグリップにポケットや PHS 落下防止の紐が引っ掛かる」「エプロンが前に垂れ下がり、介助に支障を来すので何とかしてほしい」と、エプロンを使用することで職員はストレスを感じていた。そこで、使いにくさを解消するため、背中クロス部分にマジックテープをつけたり、肩を詰めたりする等簡単に出来るリフォームを試みたが改善はされなかった。そのため、平成 22 年度に佐倉施設の「エプロン革命」でデザインされたエプロンが良いのではないかと見本を取り寄せ、試着し、今年度に購入する予定でいた。しかし、未使用のエプロンの在庫があることと、現在使用しているエプロンを無駄にしたいという思いから、問題点を解決し、快適に業務をおこなえるケアセンター独自の使いやすいエプロンにリフォームすることを目的とした。

#### 【方法】

- ① エプロンを解体する。
- ② 試作エプロンを作成する。
- ③ 職員に試着してもらい、アンケートをとる。

#### 【結果】

アンケートの結果、「前かがみになっても前に垂れ下がってこない」、ポケットを前から後ろにしたことで「ポケットが車椅子のグリップにも引っ掛からなくなった」「PHS の落下防止の紐がなくなり、より安全に介助ができるようになった」との声が聞かれた。しかし、「着脱しにくい」「肩が落ちる」「ポケットが前に欲しい」等の要望もあがったため、もう一度、試作エプロンを作成。着脱しやすいように左脇をボタン留めにし、前に名札入れ兼用のポケットを作った結果、「着脱が楽になった」「肩が落ちなくなった」と職員にも喜んで使ってもらえるようになった。また、ご入居者からも「それいいわね」とお褒めの言葉をいただいた。

#### 【考察】

エプロンをリフォームしたことによって、以前のエプロンより見た目、着心地、使い勝手共によくなり、職員のストレスが軽減された。また、在庫のエプロンを無駄なく利用することが出来た。

#### 【結論】

エプロンをリフォームしたことにより、快適に業務をおこなえるようになった。今後は、エプロンをオーダーメイドしてくれる業者を選定し、商品化していきたい。